

**12 弟子の訓練**  
**マタイ 14 : 13～32**

イントロ :

1. ハーベストフォーラム東京のメッセージ
  - (1) マタイ 14 章。12 弟子の訓練。
  - (2) その中から重要なものを取り上げて、詳細に語る。
2. 今年は、「新しいことが始まる年」
  - (1) イエスは群衆から弟子に関心に向け、使徒行伝の時代に向けての準備を始めた。
  - (2) イエスの「時の認識」。十字架の時。
  - (2) あなたは「時の認識」を持っているか。
3. イエスが 12 弟子を訓練した方法を立ち聞きしているようなもの。

**2つの出来事**

**I. パンと魚の奇蹟による訓練**

1. 総論的な情報
  - (1) イエスが行った奇蹟の中で、4 福音書すべてに記録されている唯一のもの。
  - (2) ヨハネは、イエスのメシア性を示すしるしを 7 つ選んだ。
    - ①これは第 4 番目のしるし。
  - (3) 時期は、イエスの公生涯が始まってから 3 度目の過越の祭りの時期。
    - ①イエスの公生涯は、3 年半。
    - ②2 年半が経過している。それから一年後に十字架にかけられて死ぬ。
2. 群衆
  - (1) 陸伝いにイエスの後を追ってきた。海の倍の距離を移動する。
  - (2) 指導者はイエスを拒否したが、民衆は依然としてイエスに興味を抱いていた。
  - (3) 病人にしたしるしを見たから。物質的祝福に興味があった。
  - (4) それでもイエスは、彼らを祝福した。彼らの空腹まで満たされた。
3. 弟子の訓練（ヨハネ 6 章が並行記事）
  - (1) 「あなたがたで、あの人たちに何か食べる物を上げなさい」
  - (2) ペリポを試す。
    - ①「どこからパンを買って来て、この人々に食べさせようか」
    - ②「めいめいが少しずつ取るにしても、2 百デナリのパンでは足りません」
    - ③長所は欠点ともなる。数字に強いが、神の国の経済には弱い。
  - (3) アンデレの登場。
    - ①大麦のパンを 5 つと、小さい魚を 2 匹持った少年を連れてくる。
    - ②積極的な面と、信仰の限界。

(4) イエスの方法。

- ①秩序を重んじる。
- ②父なる神への感謝を第一にする。
- ③弟子たちを用いて奇蹟を行う。

(5) その結果、男子だけで5,000人が満足。余ったものは12のかごに一杯になった。

4. 3つの教訓

- (1) イエスの弟子たちには、牧者として人々を養う責任がある(イエスがいなくとも)。
- (2) 自分の力だけでこの責任を果たすことは不可能である。
- (3) メシアが下さる良きものを人々に配給するのが弟子の使命。

5. 牧師が陥る罠

- (1) 有能であるがゆえに陥る罠（できてしまう。神が意図したものではない）  
(ILL) あるカルト的教会の悲劇
- (2) 熱心であるがゆえに陥る罠（自分を追い込み、燃え尽きる）  
(ILL) 「聖なる手抜き」が大切である。

## II. 嵐の湖での訓練

1. ガリラヤ湖の地形

- (1) 弟子たちは、およそ9時間格闘していた。
- (2) 嵐のために、たった4～5キロメートルしか進まない。

2. イエスの姿を見て、恐れた。死の天使だと思った。

- (1) 彼らは、パンと魚の奇蹟から教訓を学んでいない。
- (2) もし学んでいるなら、イエスに助けを求めたはず。

3. 「しっかりしなさい。わたしだ。恐れることはない」

- (1) 不信仰で曇った目を開ける。
- (2) 涙の目をぬぐう。

4. ペテロの願いと主の許可。

- (1) 信仰は体重が移動する瞬間に働く。
- (2) 歩いてみると、それができた。
- (3) しかし、イエスから目が離れて風を見た時、こわくなって沈みかけた。
- (4) ペテロの叫びと、主イエスによる救出。

5. イエスが舟に乗ると、風は止んだ。

- (1) 舟にいた者たちの信仰告白。「確かにあなたは神の子です」。
- (2) 正しい神学なしに、健全な霊性は育たない。
- (3) 正しい神学だけでは不十分。それを生活に適用する必要がある。

6. 3つの教訓

- (1) 信仰は、第一歩を踏み出すことが大切。
- (2) 神の御心に従っていても、嵐は来る。
- (3) 一歩踏み出した後も、イエスを見続ける必要がある。

#### 結論

1. イエスの弟子には、人々に霊の糧を与える義務がある。
2. 主から受け、人々に与えよ。
3. 信仰の一步を踏み出せ。
4. イエスの御顔を見続けよ。